



大手町いまながクリニック

院長 今永 知俊 先生

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本呼吸器学会専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

北九州市小倉北区大手町 13-34
ハローパーク大手町 2F
093-562-2580

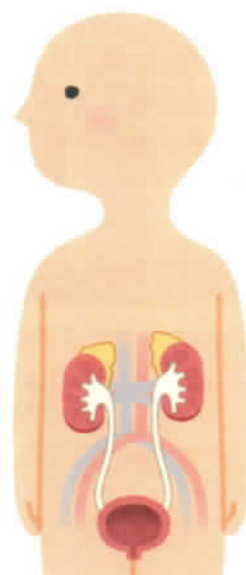
尿検査でわかる身体のSOSサイン

尿検査は身体に負担がなく、有用な検査です

尿とは血液中の老廃物や余分な水分がろ過されて、体外へ排出されたものです。身体の機能が低下している場合、十分にろ過されず身体に必要な成分が尿に混じっていたり、不要な成分が排出されていなかったりします。

尿検査は、こうした自覚症状の出にくい様々な臓器の異常や疾病の徴候を、身体に負担をかけることなく確認できるため、大変有用な検査です。もちろん尿検査の結果だけで確定診断することは難しいですが、病気の早期発見や健康管理の大切なきっかけとなるため、広く一般的に行われています。

また、尿は体調や生活環境、摂取したものなどによって変化するため、日頃から色や量、においなどをセルフチェックして、自分の健康状態を把握しておくことも大切です。



尿検査で何がわかる？

尿は腎臓で作られ、尿管を通して膀胱に貯まり、ある程度の量になると尿道を通じて排出されます。尿検査では主に腎臓や尿道、膀胱などの状態を知ることができます。また他の検査と組み合わせることで、肝臓や前立腺の病気、糖尿病など、全身の状態を幅広く把握することができます。

主な尿検査の項目

尿蛋白(たんぱく)

尿中のたんぱく質の量を調べる検査で、腎臓が正常に機能しているかどうかわかります。たんぱく質は、身体にとって必要な成分であるため、健康な人の尿にはほとんど現れません。しかし腎臓の働きが低下すると、たんぱく質が再吸収されずに尿中に漏れ出るようになります。

■ 異常があった場合に考えられる病気

糸球体腎炎、糖尿病腎症、
ネフローゼ症候群など



血尿

尿中に血液が含まれていないかを調べる検査です。腎臓や尿路(尿管や膀胱、尿道口)から出血している場合に検出されます。尿が赤みをおびていたり、濃い茶色になったり、肉眼で血液を確認できる場合もありますが、ごく微量の場合は尿試験紙や顕微鏡によって確認される事もあります(尿潜血)。

■ 異常があった場合に考えられる病気

糸球体腎炎や膀胱炎、尿路結石のほか、
腎臓・膀胱・前立腺のがんなど

